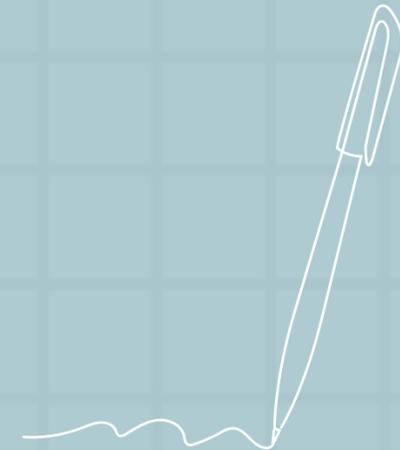
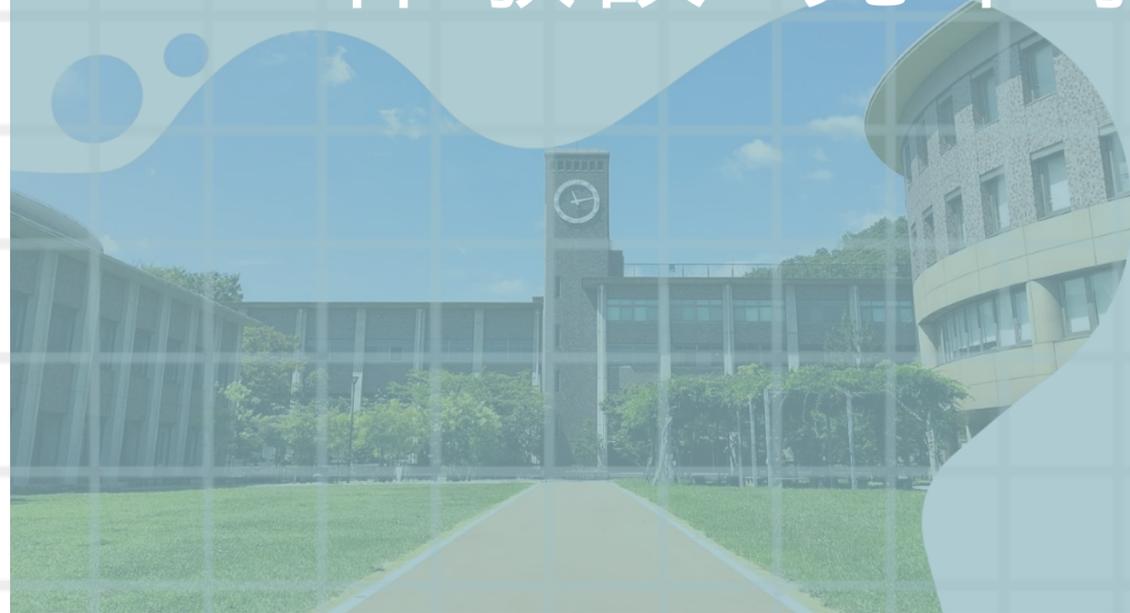


# 国内交換留学（立命館大学 RU）

体験談・先輩学生からのアドバイス



# 留学での成果・達成できたこと

- ・レストランで1年間接客アルバイトに従事した。接客業務をしながらコミュニケーションある能力や日本語を向上させる機会となった
- ・卒業科目に必須である英語開講の授業を順調に取得できた
- ・新たな人脈作り
- ・立命館大学のみんなは2回生からサブゼミに入ったり、早期段階で就活を始めている人がAPUより多い事が肌で感じられたことでモチベーションも向上し、6セメスターの段階で内定を貰う事ができた
- ・学内外の活動やイベントにも参加した。京都市国際交流協会や立命館大学のTISAというサークルに開催されたイベント
- ・京都にいないとできないこと、例えば学会のアルバイトや他大学の授業の聴講、国立国会図書館へ行くことなどが達成できた
- ・APUとは違うテーマ関心を持つ授業を受けることで、大学の幅の広さを感じ、APUのリソースの貴重さを認識した
- ・大学院の授業に参加し、課題やディスカッションを通して大学院に進むためにどのような準備をすればいいのか、現時点の自分に足りないものを明確にすることができた
- ・APUで学んできた知識を深めながら、日本語の成長を目指すことを完全に達成できた
- ・コミュニケーションスキルや適応スキルの向上



# 留学での成果・達成できたこと

## ★産業社会学部

- ・環境学・社会学の二側面を学ぶことにより、市民の意向形成と組織・企業の動向を学ぶことが出来た
- ・現代環境論で、ドイツのシェーナウ(エコ電力が浸透している地域)を学び、日本の環境問題に関わる負担意識削減と脱炭素を推進するための要因を見つけた
- ・APUの外で社会学や障害学を深く学ぶ
- ・生存学研究所の書庫で障害者運動に関わる貴重な資料を閲覧し、自分の勉強につなげることができた
- ・立命館大学大阪いばらきキャンパスで行われた生命倫理学会年次大会のアルバイトをし、研究発表の場を生で見ることができた

## ★経営学部

- ・組織心理学研究ゼミをはじめ、APUでは講義が少なかった組織行動論について学ぶことができた
- ・より実践的な経営学を学ぶこと
- ・市の職員との政策立案
- ・単位だけでなく+α、FPと証券外務員の資格を取得することができた

## ★法学部

- ・法律の基礎知識を身につけること



# 留学で達成できなかったこと

- ・学校内で課外活動にあまり取り組めなかった。サークルや学内イベントにもっと参加できればよかった
- ・授業外の活動や大学内の行事に参加できなかったこと
- ・開講科目を確認しなかったため、想定よりも環境学に関わる科目を受講できなかった
- ・履修を予定していた授業が抽選科目で、履修出来なかったこと
- ・調査不足によりゼミナール公聴が出来なかったこと
- ・資格講座3つ、アルバイト、就活、ゼミなどやりたいことが多くチャレンジしてみた結果、手に負えなくなり、6セメスターの単位が思うように取得できなかった
- ・派遣期間が1セメスターであったため、入りたかった和太鼓サークルに参加させてくれなかった
- ・履修した授業科目すべての単位を取れなかった



# 留学生活におけるアドバイス(履修科目登録編)

・開講科目に関して、事前にmanaba+Rで確認すると良いです。(春のみ開講・秋のみ開講などがあります。)

・事前に関心領域と似ている教授を見つけて授業を見つけたりゼミナール公聴などを行うことで、学びを最大化できると思います。

<https://www.ritsumei.ac.jp/ss/about/faculty/>

・単位は履修できる最大数をおすすめします。他大学での講義を受講することはまたとない機会なので、様々な分野に挑戦すると新たな学びがあると思います。

・抽選科目は、受講できる可能性が低いのであまりおすすめしません。(交換留学のための申請フォームで受講を希望する授業を書くかと思いますが、余分に1-2個受けたい授業を考えても良いと思います。)

・他学部へ留学する場合、興味のある科目であってもオフィスの方に交流生でも授業についていけるか等を詳しく相談することが重要。



# 留学生活におけるアドバイス(履修科目登録編)

## ★産業社会学部

・個人的に良いと思った授業を2つ紹介します。(前述のように、派遣時期に開講されているかは不明なため確認してください。)

①現代環境学(木原浩貴教授)環境学に関わる基礎的知識をはじめ、諸外国での脱炭素の取り組み事例を多く紹介されていたので環境学を学びたいと考える人にはおすすめです。

②比較市民教育論(角田将士教授)日本の教育の変遷や、諸外国との教育方法の比較を学ぶ講義です。教育方法の差を学ぶことで、他地域出身の学生の価値観を知ることができ、APUで過ごされるみなさんにとって多文化理解の一步になると思います。

・恐らくガイダンスの際に説明されていると思いますが、私が留学した産業社会学部は英語開講の授業が無かったので、APUにいる時に計画的に履修を進めておくべきだと思います。(国際関係学部の友人は、いくつか英語開講の単位を履修していると言っていたので学部によって異なると思います。)

・産業社会学部は、現代社会専攻やメディア社会専攻、人間福祉専攻などあり、様々な授業があるため、履修科目はじっくり決めた方が良いでしょう。メディア社会専攻の特殊講義は映画監督等の講演会とディスカッションなどもあるためシラバスで細かい情報までチェックした方が良いでしょう。

・「現代市民社会論」や「社会階層論」などで理論や具体的なデータを学び、「臨床社会学」では、障害や老いなどに関わる臨床的な社会学のアプローチを学んだ。「自我論」は日本の世間とは何かという刺激的な内容だった。



# 留学生活におけるアドバイス(履修科目登録編)2

## ★経営学部

- ・ゼミを受講することをお勧めします。専門分野を学ぶことができるし、小規模のクラスで他の学生と仲を深める良い機会になりました。ゼミ合宿もありますので、より楽しい環境で学業に充実することができます。
- ・ゼミへの加入は強制ではありませんが加入すると新しい環境での友人関係の構築や大学の仕組みや情報を早く入手することができるので半年、1年しかない長いようで短い国内留学での学生生活をより充実させたい方にはゼミへの加入はオススメです！！



# 留学生活におけるアドバイス(学習編)

- ・一般的に一科目予習復習合計3時間程度あれば十分だと思います。
- ・APUがグループワーク中心であるのに対し、立命館大学は座学中心のため知識の差を感じることがありました。そのため、事前に領域の論文やニュースに目を通しておくが良いと思います。
- ・教授の方々は、質問すると丁寧に対応して下さる方が多かったので迷ったときは質問すると良いと思います。
- ・9月初週にガイダンスを実施していただき、色々サポートしていただきました。(秋派遣学生)
- ・授業開始初週にアカデミック・アドバイジングも行っていました。
- ・履修科目相談・登録に関しても、事務室で対応していただきました。
- ・一人で勉強を進められる方には適した大学だと思います。グループワークがあまりないため、議論を通して学びたいという方には物足りなさがあると思います。より学問分野を深めたいと考えられている方にもおすすめします。
- ・講義のメモをとる習慣を続けていました。分からないことや質問項目は必ずメモに残して、調べたり直接質問をしました。メモをとることで復習しやすくなり、次の学びにつながるヒントをたくさん得られました。
- ・都会という立地を活かした特別講義やイベントが多く、実際の社会人の方のお話を聞く機会がかなり多かったです。自分の知見を広めたり将来像を考えさせられる授業が多い印象を持ちました。グループワーク授業も前評判と違いかなり多く実施されており、多様な考え方に触れる機会となりました。(OIC派遣学生)



# 留学生活におけるアドバイス(学習編)2

- ・立命館大学茨木キャンパスは自習スペースが廊下を歩いていると至る所にあり、勉強する場所を気分を選び集中できるので、課題や資格の勉強をする際は使ってみてください！(OIC派遣学生)
- ・他学部への留学の場合、学部独自のレポートの書き方などの基礎的な知識を教えてもらうことが困難なため、自分から積極的に学生やTAにコミュニケーションをとることが重要。
- ・事前に予習することと宿題をきちんとすること、また、リーディング、講義の資料などを勉強することも大事だと思う。
- ・何か心配していること、分からないことがあったら、一人で悩まずに、友達や先生にオフンスアワーを利用して相談したらいいと思う。
- ・APUには法学部がないため、最初は法学の勉強に挑戦することに不安を感じていました。私はどうしても法学を学びたいという強い気持ちがありましたが、日本で生活している中で自国とは異なる法律を知らないことに挫折感を感じたこともありました。ですが、挫折で立ち止まるのではなく、挑戦し続けることを選びました。法学を独学で学ぶ過程は決して簡単なものではありませんでした。履修した科目の多くは、上級生向けの内容であり、初めて法を学ぶ私にとって困難なことが多かったです。そのため、他の学生よりも何倍も努力する必要がありました。立命館大学の図書館で見かける法学部の学生たちは、毎日集中して勉強に励んでいます。その中で、私も初心者だったためより努力し、分からないことは自分で調べたり、積極的に質問をしたりして知識を深めました。(法学部派遣学生)



# 留学生活におけるアドバイス(寮編)

## ★衣笠(KIC)

- ・民間で部屋を借りていました。
- ・5月末に派遣が決定し、7月あたりから部屋を探しました。(早すぎると対応が難しいようでした。) \*秋派遣
- ・事前に半年だけの貸借である旨を伝え、その上で契約を締結しました。\*1セメスター派遣
- ・その後は一般的な賃貸住宅と同じ流れです。
- ・APU生でも入寮することができる立命館の国際寮はAPハウスに似ており、国際生の友人を作りたい学生にとってはおすすめ。

## ★大阪いばらきキャンパス(OIC)

- ・完全個室で6人が共有する施設(シャワー室、キッチン、トイレ)で過ごしました。ほとんど留学生が住んでおり、英語を使う機会が多かったです。一緒にご飯を作ったり、登校するなど友達を作りやすい環境です。徒歩3分の距離で市役所があってとても便利です。



# 留学生活におけるアドバイスや感想

- ・生協は手続きが必要ですが、丁寧に対応していただきました。
- ・留学先の受け入れ体制は万全だと思います。何か困ったことがあっても対応していただきました。
- ・キャンパス内の窓口で履修登録や学校についてお問い合わせできます。  
また、キャンパスにあるBBP(APUのSALCのような施設)で他の留学生と交流することができます。
- ・同時期に派遣されるメンバーとは、積極的な交流をおすすめします。  
知り合いがいない地域や大学に行くことになるので、顔見知りがあると心強いです。
- ・授業前後はバスが混雑し、長蛇の列になっているので通学手段としてあまりおすすめしません。
- ・せっかくなのでAPUでは中々できないことを沢山してみることをお勧めします。街のイベントや盆踊りなどその場所でしか楽しめない活動に参加することもお勧めします。私は留学中に気づいたこと、感じたことなどをメモ帳に書きました。新しい環境で生活する難しさを乗り越えながら成長したことや目標を書いてみることで、より充実した留学生活を過ごせると思います。
- ・APUとの校風の違いを体感しました。自由なAPUと堅実なOICはどちらにも良さがあり新たな出会いや学びが新鮮でした。
- ・立命館大学に国内留学をしてみて実際に気づいたことは、APU以外の大学に通うことでAPUの国際性が優れている事がより深く理解できたので、7セメスターからは留学前よりもっと積極性を持って英語の授業や、国際生とのコミュニケーションを楽しみたいです！また、立命館大学はAPUに比べると早期に就活を始める方が多い印象だったのでインスピレーションを受けてスタートを早めにきる事ができたので就職活動の時期に立命館で勉強する事ができて良かったです！！



# 留学生活におけるアドバイスや感想2

・法学部に留学したことで、自身に合った学問分野をより理解でき、今後の進路を考えるよい機会になりました。また、APUでの学習環境と派遣先大学での学習環境は全く異なっており、受動的な学習を好むか積極的な学習を好むかで交流生のモチベーションが変わるのではないかと感じました。それぞれの大学での学習環境を経験したことで大学生活がさらに価値のあるものになったと同時にAPUでの学習は唯一無二であり、自身に適應しているものであったと再認識することができました。そして、派遣先で学んだ知識や経験を今後の進路に最大限活かせるようにしたいと感じました。(法学部派遣学生)

・立命館はセメスター制のため、学期末が特に忙しいので注意！

・図書館がとても広く、蔵書数も多いのでおすすめ。APUの学生証でも中に入れるし、本を借りることもできました！

・環境の変化で不調をきたしたらカウンセリンググループを使うこともできます。

・交換留学は素晴らしいです。する余裕があったらした方がいいと思います。交換留学で得られる経験と成長は不可欠です。1年間派遣はとても魅力的ですが、おそらく交換留学でしたいことは1セメで必ずできます。1年間の留学を選ぶ前に、ちゃんと派遣期間を1年間にする具体的な理由はなにか、良く考えてください。

・立命館のサークルや部活が多いため、APUでは経験できない活動をやってみてください！

・遊ぶときはしっかりと楽しむことで、学びと生活のバランスを取ることができると思います。挑戦と努力を恐れず、自分の目標を達成してください。

